

課題

「石巻CAN-DOリスト」を用いた指導と評価の実践とそのデータベース化



具体的な取組と工夫

協力校(4校): 和瀨小学校、河南東中学校、桃生小学校、桃生中学校

- 「石巻CAN-DOリスト」(小3から高3までの4技能5領域の学習到達目標をつなげたリスト)をベースにした指導と評価の計画および、その目標を基に教科書と関連付けて「石巻」について発信する言語活動の実践(以下、実践例)
  - (小)外国の人に、災害が起きた時にどこに避難したらよいかを知ってもらうために、地図を見ながら道案内をする活動。
  - (中)東日本大震災で犠牲になった石巻市のALTのテイラーさんの事例を踏まえて、外国人へ地域の一員として減災・防災意識を高めてもらうための減災・防災新聞を作成する活動。
  - (高)日本に旅行を計画している海外の友人からの日本の災害に関するメールでの質問について、日本で安全に過ごしてもらえるように、その質問の回答を根拠や理由とともに書いて伝える活動。
- 「石巻CAN-DOリスト」に紐づいた児童生徒のパフォーマンスの映像等をデータベース化し、それらを参照できる「動くCAN-DOリスト」の作成
  - ・CAN-DOリストの発信技能における各能力記述文に、①パフォーマンステストの実施要項、②補助資料、③評価基準の三観点すべてa評価の例、④すべてb評価の例の4つリンクを添付し、児童生徒のパフォーマンスの様子を常時閲覧できる「動くCAN-DOリスト」の作成に着手した。
- 異校種間の子ども同士の英語での交流
  - (小一中)・中学校の部活動や行事を紹介するポスターを作成し、小学校に送付した。  
また、小学生はそのポスターを見て、どの行事に参加したいか等話して伝え合った。
  - (小一高)・高校生が小学校の授業へ参加し、my best memoryについてスライドを用いて紹介し合った。
  - (中一高)・高校生が中学校の授業へ参加し、学校生活に関するインタビューを通して中学生と交流した。
- ICTを活用した、授業実践等の日常的な共有とその内容についての協議
- 公開授業及び外部専門機関と連携した英語指導力向上に係る研修会の実施  
講師: 東京外国語大学 教授 投野 由紀夫 先生
- 先進的な取り組みを行っている千葉県立千葉南高等学校、東京都立立川国際中等教育学校への視察

話すこと[発表]	
関心のある事柄や日常的话题について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	
実施要項	補助資料
aaa評価	bbb評価

動くCAN-DOリストの一部

成果

- 「動くCAN-DOリスト」の作成に着手し、骨格の整理および一部内容の作成が完了した。「目標と指導と評価の一体化」をさらに推進するための資料の整備により、関係者間の共通理解が促進され、組織として主体的かつ継続的に改善を進めていくための土台を構築することができた。
- 子ども同士の交流を通して、相手意識のある英語でのやり取りを行うことができた。小中学生にとっては良いロールモデル効果が生まれ、教育関係の進路を希望する高校生などにとっても有益な機会となり、英語学習に対するモチベーションの向上につながった。

課題及び改善案

- 課題
  - ・「目標と評価」の整合性を高めるために、「石巻 CAN-DOリスト」の能力記述文の見直しを行うとともに、パフォーマンステストの改善を図ること。
- 改善案
  - ・CAN-DOリストの能力記述文を修正するために、専門機関と連携をとること。
  - ・継続的な協議及び研修の機会を設け、「目標と指導と評価の一体化」のさらなる充実・強化に努めること。